

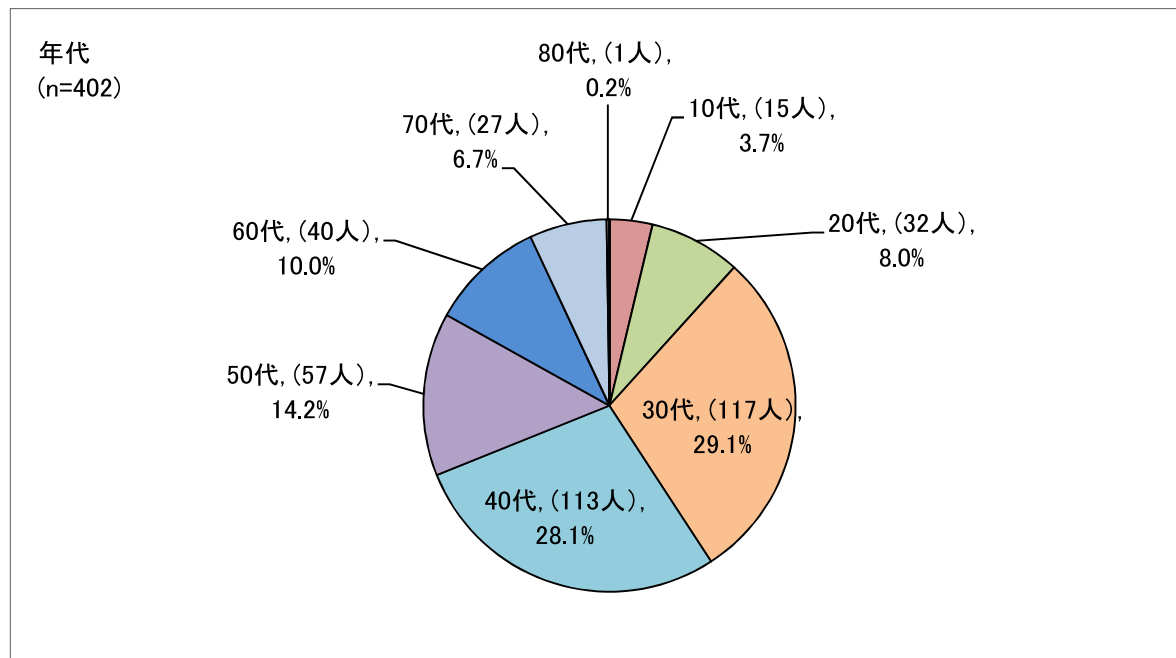
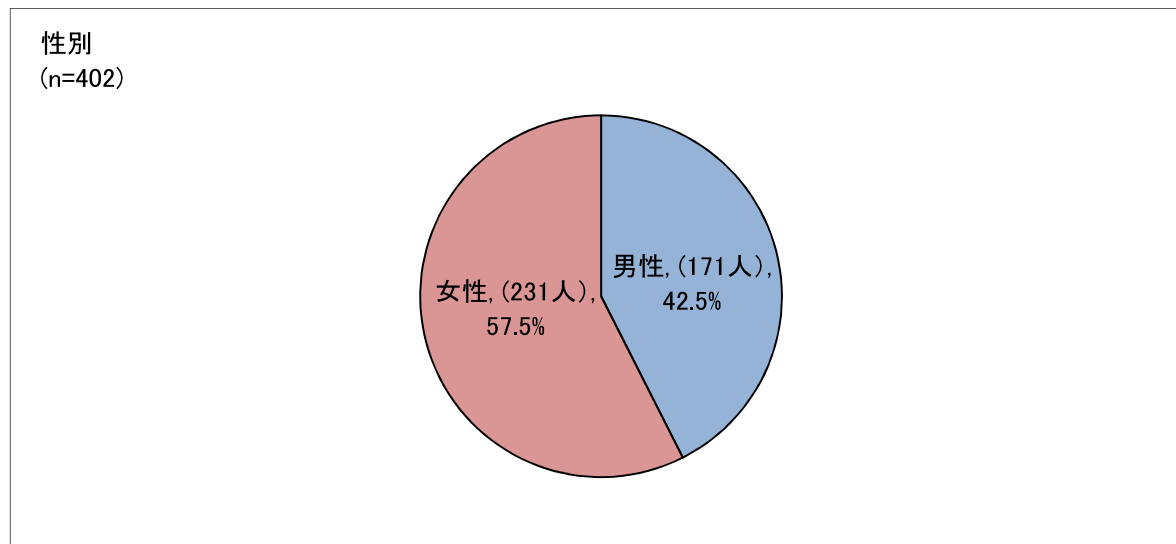
成田市インターネット市政モニター アンケート集計・分析結果（第41回）

第41回のテーマは「避難所での生活に関するアンケート」でした。

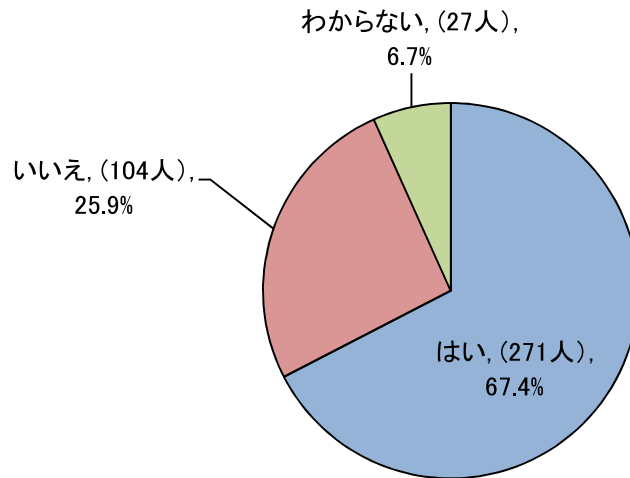
登録者数：630人

実施期間：平成29年6月9日（金）～6月19日（月）

回答者数（回答率）：402人（63.8%）

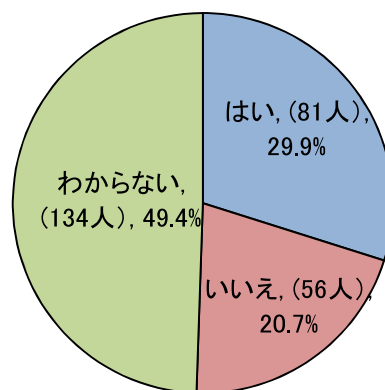


[Q1]自治会・区・町内会等(以下「自治会等」。)に加入していますか。(単一選択)
(n=402)



Q1	自治会・区・町内会等(以下「自治会等」。)に加入していますか。(単一選択) 単一回答		
		N	%
1	はい	271	67.4
2	いいえ	104	25.9
3	わからない	27	6.7
	全体	402	100.0

[Q1]で「1.はい」を選択した方にお伺いします。
[Q2]自治会等において、自主防災組織は結成されていますか。(単一選択)
(n=271)

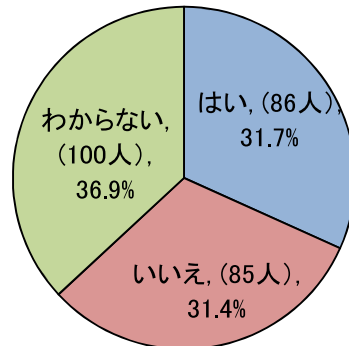


Q2	自治会等において、自主防災組織は結成されていますか。(単一選択) 単一回答		
		N	%
1	はい	81	29.9
2	いいえ	56	20.7
3	わからない	134	49.4
	全体	271	100.0

[Q1]で「1.はい」を選択した方にお伺いします。

[Q3]自主防災組織又は自治会等において、防災について話し合ったことがありますか。(単一選択)

(n=271)



Q3	自主防災組織又は自治会等において、防災について話し合ったことがありますか。(単一選択) 単一回答		
		N	%
1	はい	86	31.7
2	いいえ	85	31.4
3	わからない	100	36.9
	全体	271	100.0

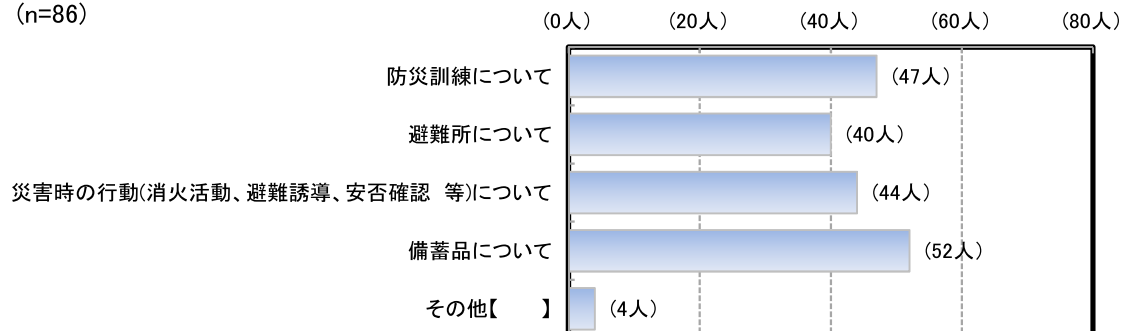
自主防災組織又は自治会等（以下、「自主防災組織等」。）において、防災について話し合ったことがある人は、3割程度であるとわかりました。また、自治会等に加入していない人が4分の1程度おり、自治会等に加入している人でも、自主防災組織を結成しているかわからない人が半数近くいることがわかりました。

今後は、防災活動への積極的な参加を推進するとともに、自治会等に加入していない人への防災啓発について検討する必要があると考えます。

[Q3]で「1.はい」を選択した方にお伺いします。

[Q4]どのようなことを話し合いましたか。(複数選択可)

(n=86)

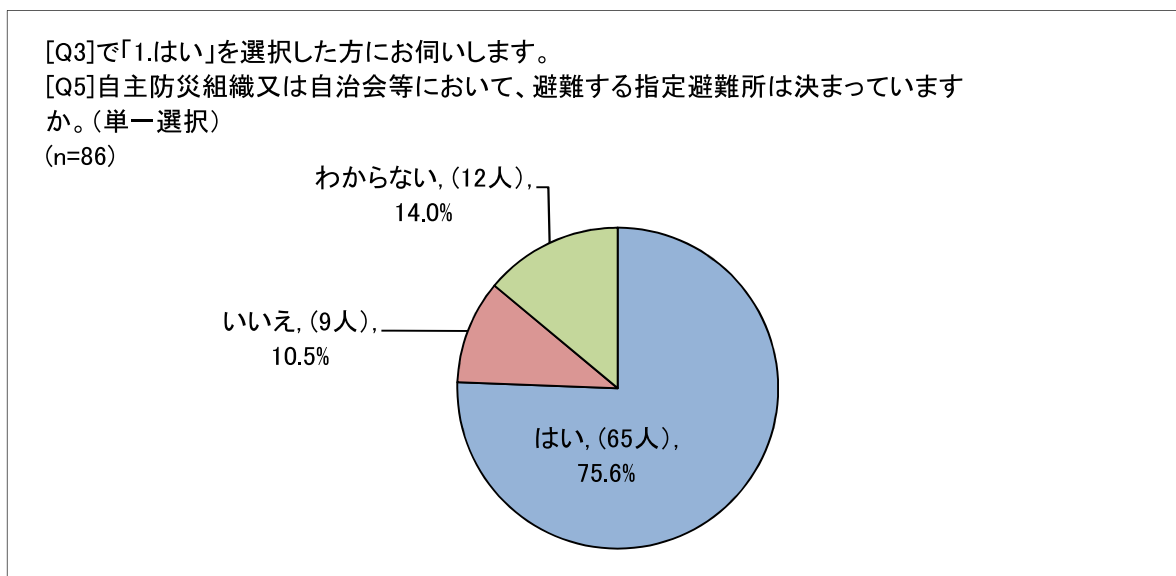


Q4	どのようなことを話し合いましたか。(複数選択可) 複数回答	N	%
2 避難所について	40	46.5	
3 災害時の行動(消火活動、避難誘導、安否確認 等)について	44	51.2	
4 備蓄品について	52	60.5	
5 その他【 】	4	4.7	
	全体	86	100.0

その他【 】 4人

- 要介護者の避難対策
- 今後の高齢化に対応出来るか
- 炊き出しの練習
- 組織、防災倉庫

備蓄品についてが最も多く、次いで防災訓練について、災害時の行動について、避難所についての順になりました。

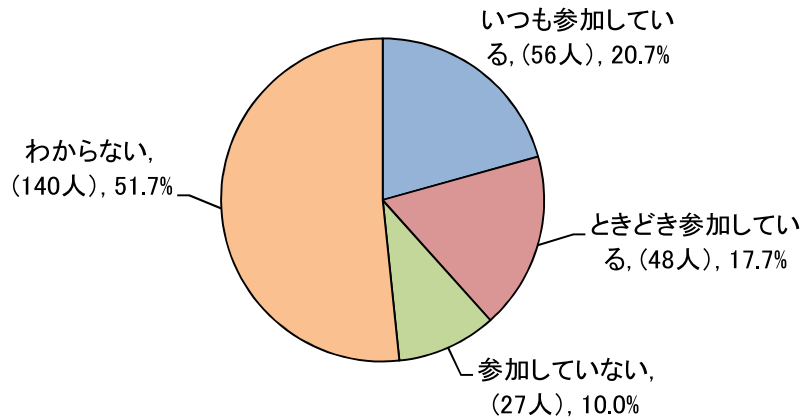


Q5	自主防災組織又は自治会等において、避難する指定避難所は決まっていますか。(単一選択) 単一回答	N	%
2 いいえ	9	10.5	
3 わからない	12	14.0	
	全体	86	100.0

7割以上の方が、自主防災組織又は自治会等において決定した指定避難所を把握していることがわかりました。

自主防災組織等において防災や災害時の行動等について話し合うことで、避難する際に自主防災組織等でまとまることができ、人員の確認がしやすくなるとともに、円滑な避難所運営に繋がっていくと考えられます。

[Q6] 自主防災組織又は自治会等の会議又は活動等において、女性はどのくらい参加していますか。(単一選択)
(n=271)

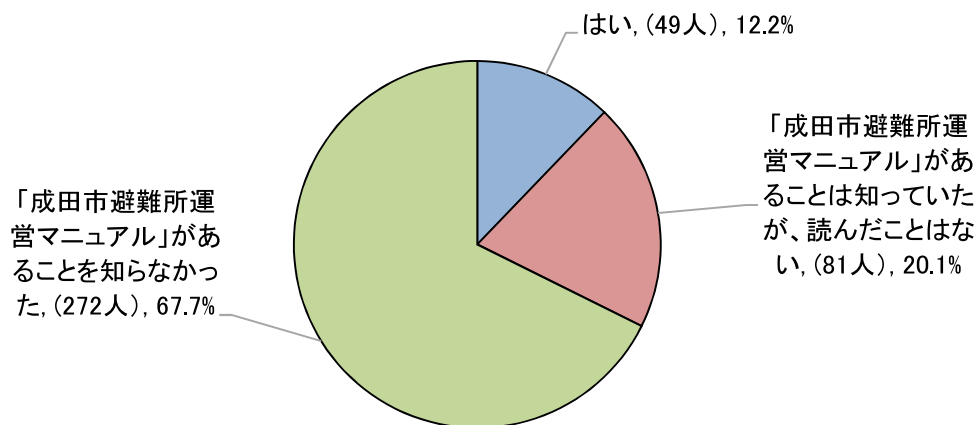


Q6	自主防災組織又は自治会等の会議又は活動等において、女性はどのくらい参加していますか。(単一選択) 単一回答	N	%
1	いつも参加している	56	20.7
2	ときどき参加している	48	17.7
3	参加していない	27	10.0
4	わからない	140	51.7
	全体	271	100.0

自主防災組織等の活動における女性の参加率は4割以下であることがわかりました。

防災活動において、女性の参加は非常に重要です。普段から自主防災組織等の活動に参加することで、災害時にも活動しやすくなると考えられます。

[Q7] 「成田市避難所運営マニュアル」を読んだことがありますか。(単一選択)
(n=402)

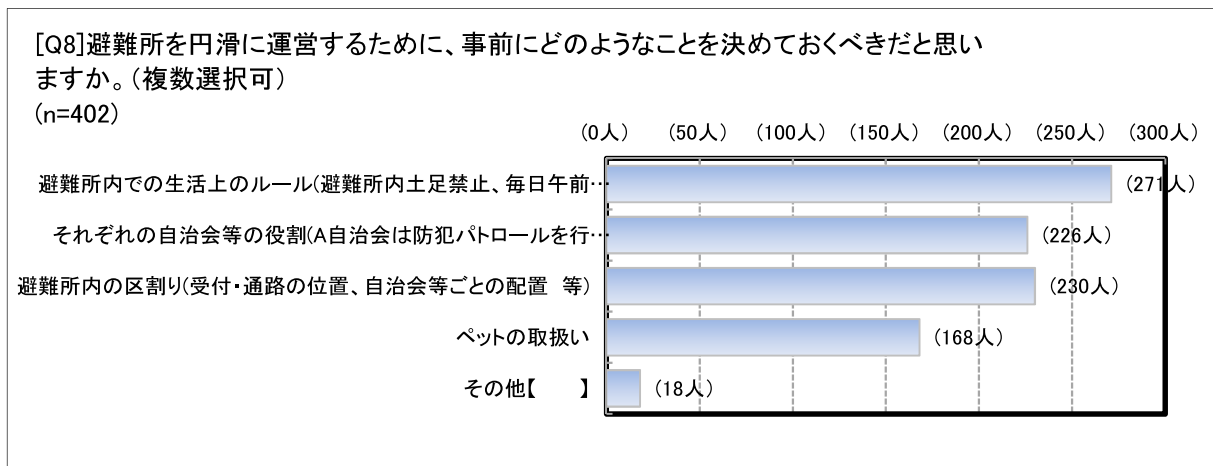


Q7	「成田市避難所運営マニュアル」を読んだことがありますか。(単一選択) 単一回答	N	%
1	はい	49	12.2
2	「成田市避難所運営マニュアル」があることは知っていたが、読んだことはない	81	20.1
3	「成田市避難所運営マニュアル」があることを知らなかった	272	67.7
	全体	402	100.0

「成田市避難所運営マニュアル」を読んだことがない人が8割以上いることがわかりました。

避難所では、地域団体及び避難者、避難所担当職員、避難所となる施設の管理者等が相互に連携しながら運営を行います。

災害時に円滑な避難所運営が行われるよう、当マニュアルについて今後も啓発して参ります。



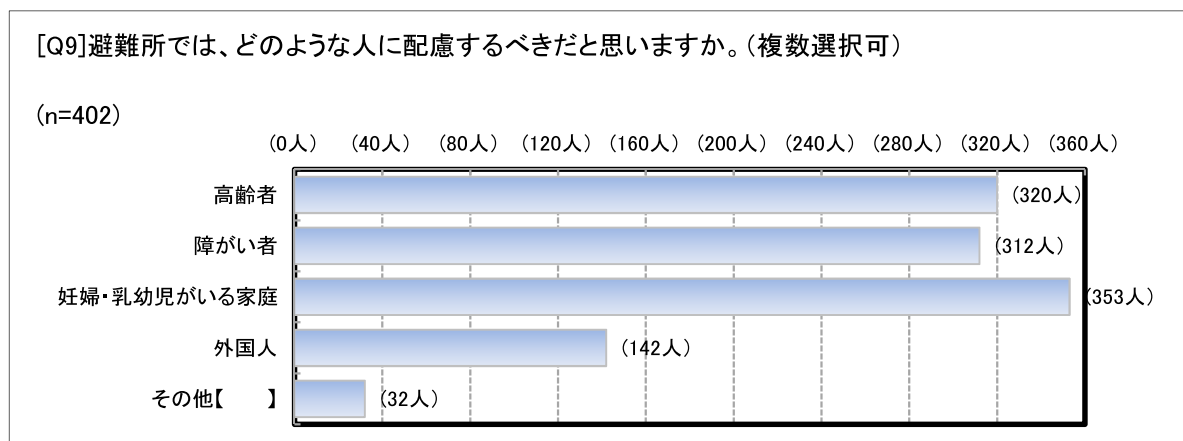
Q8	避難所を円滑に運営するために、事前にどのようなことを決めておくべきだと思いますか。(複数選択可) 複数回答	N	%
1	避難所内での生活上のルール(避難所内土足禁止、毎日午前10時に掃除を行う等)	271	67.4
2	それぞれの自治会等の役割(A自治会は防犯パトロールを行う、B自治会は支援物資を配布する 等)	226	56.2
3	避難所内の区割り(受付・通路の位置、自治会等ごとの配置 等)	230	57.2
4	ペットの取扱い	168	41.8
5	その他【 】	18	4.5
	全体	402	100.0

その他【 】 18人

- 役割を決めていてもいざ大災害が起きた場合対応できないと思う、外出などで担当がいな場合余計混乱を招く恐れも
- 車で避難して、駐車場で過ごす人向けのルールと支援物資などの決まり
- あまりマニュアル化するべきではないと思う

- 自宅避難者の安否確認
- 避難所のトップを決める、皆はそのリーダーに従う事
- 現実的に避難所としての機能があるかどうか
- 避難場所の立地を 市民に把握させる事が第一
- 車中泊希望者に対する支援の公平性
- 赤ちゃん、妊婦さんなどの対応
- 自治会ありきはやめてほしい
- 管理監督の責任者を決める方法
- 病人や高齢者の取り扱いをどうするのか
- 医療機関との連携
- 持病持ち、障がい者、車イス、独居高齢者、人工透析患者、発達障害など配慮が必要な案内
- 各種ルールは実際避難した場合、大きなポスターで現場に掲げる
- アレルギー食の対応
- 避難所がどこかわかりません。町内会がありません。
- 経験のある自治体などに聞いてみてほしい

避難所内での生活上のルールが最も多く、次いで避難所内の区割り、それぞれの自治会等の役割、ペットの取扱いの順になりました。また、要配慮者への対応や車中泊避難者への対応のほか、マニュアル化すべきでないという意見もありました。



Q9	避難所では、どのような人に配慮すべきだと思いますか。(複数選択可) 複数回答	N	%
1	高齢者	320	79.6
2	障がい者	312	77.6
3	妊婦・乳幼児がいる家庭	353	87.8
4	外国人	142	35.3
5	その他【 】	32	8.0
	全体	402	100.0

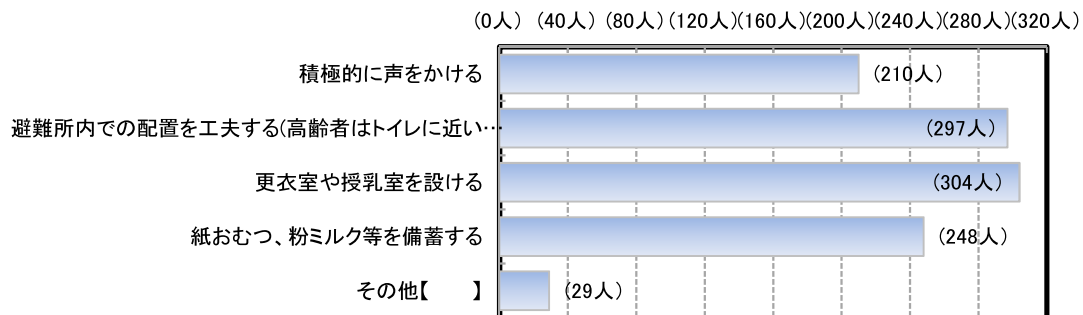
その他【 】 18人

- 将来のある若者

- 薬を服用するなど医療が必要な人
- 持病がある方。薬を処方されている方。
- 病人（術後やがん闘病中など、ケアが必要な人）
- 女性
- 子持ちシングルの方
- とにかく子供が一番
- どのような人ではなく皆がお互いに配慮すべき。
- 弱者
- 病人
- お互いに配慮すべき
- 年齢で一律に決めるべきでは無く、要介護者認定制度等、明らかな弱者に配慮する事。
- ペットの居る家庭
- 持病をもっている人
- 住民以外の人
- 持病もちの方
- 皆の為に働く人。避難所でじっとしてる人は後回し。
- 子供
- 皆がみんなに配慮すべき
- 要は、弱者優先が保てるかではないでしょうか
- 人工透析や持病持ちの方々、独居高齢者または高齢者夫婦
- 全ての人
- 介護を必要とする本人とその家族
- アレルギーを持った人
- 怪我をしている人
- 安眠。プライバシーの確保
- 健常者に対しても配慮は必要です。

どのような人に配慮すべきかについては、「妊婦・乳幼児がいる家庭」が最も多く、高齢者、障がい者のほか、病気の人や持病のある人、外国人、健常者か否かに関係なく全ての人に配慮すべきという意見もありました。

[Q10]Q9で、配慮すべきと回答した人に対し、どのようなことができると思いますか。(複数選択可)
(n=402)



Q10	Q9で、配慮すべきと回答した人に対し、どのようなことができると思いますか。(複数選択可) 複数回答	N	%
1	積極的に声をかける	210	52.2
2	避難所内での配置を工夫する(高齢者はトイレに近い場所に配置する等)	297	73.9
3	更衣室や授乳室を設ける	304	75.6
4	紙おむつ、粉ミルク等を備蓄する	248	61.7
5	その他【 】	29	7.2
	全体	402	100.0

その他【 】 29人

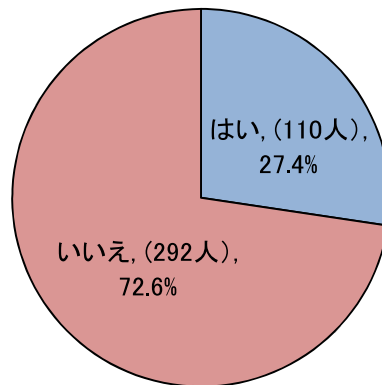
- お薬手帳の確認や健康状態の確認
- 生理用品やトイレの場所 男性と分ける
- アレルギー対応の備蓄品を用意する。
- ベビーサークル
- 外国語の案内等を予め準備しておく。特に成田市在住の方は多国籍だと感じる為。
- 食事や水分の量等全てにおいて配慮すべき
- 足の不自由な方のために車イスを用意しておく
出来ればそれらの方に健常者の担当者を付ける
- 要介護者は自宅避難を原則とし、避難時にはリアカーを使用することとしている。
- プライバシーの保護
- 弱者特別配慮
- 有資格者に対して、事前に登録して貰い、有事の際は市の責任で適材適所の配置及び員数調整のマニュアルの準備が有効。
- 保健師や看護師を派遣する
- 女性用の下着、生理用品の備蓄
- 差別しない
- 皆のために動きやすくするための協力。
- 外国語併記のガイド冊子を作成する
- 外国人の方と通訳になってもらえる市の人材名簿を知っている
- なにが必要か聞くことが大切、簡単ですがこれが大切
- 配慮に必要な情報

- 障がい者がいることへの理解
- どのような支援が必要か具体的に聞き取り
- 乳幼児が安心して 過ごせる場所設置 オモチャ絵本など置く
- 外国人向けの言葉の案内のようなものを用意する
- 子供達が騒ぐこともあるので騒いでも大丈夫な空間の確保（避難部屋）
- 配慮が必要であることを周知できるツール
- 経験自治体の意見を取り入れて成田市なりに変えていってほしい

アレルギーに対応した備蓄品やベビーサークル、車椅子、外国語が併記されたガイド冊子等、事前に物資を用意することのほか、プライバシーに配慮すること、協力すること、どのような支援が必要か聞き取ること等、事前の用意がなくても、避難所において実施できることがあげられました。

避難所では、可能な限り普段の生活との落差を少なくするためにも、とくに高齢の方や障がいがある方への心配りや、プライバシーへの配慮など、避難者同士がお互いに協力するようお願いいたします。

[Q11]あなたはペットを飼っていますか。(単一選択)
(n=402)

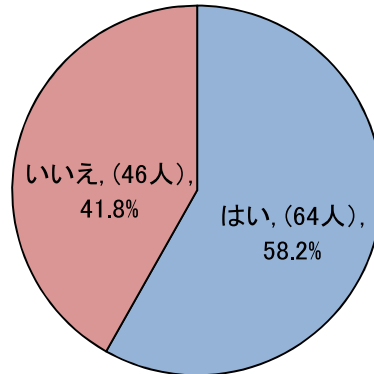


Q11	あなたはペットを飼っていますか。(単一選択) 単一回答		
		N	%
1	はい	110	27.4
2	いいえ	292	72.6
	全体	402	100.0

[Q11]で「1.はい」を選択した方にお伺いします。

[Q12]ペット用の備蓄(水、ペットフード、薬、ペットシート 等)はしていますか。(単一選択)

(n=110)



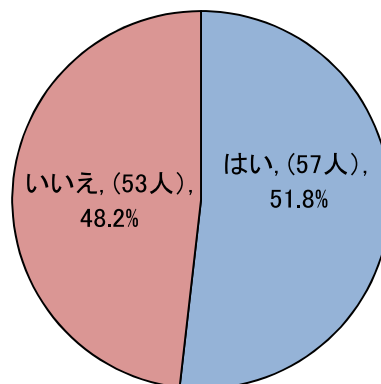
Q12	ペット用の備蓄(水、ペットフード、薬、ペットシート 等)はしていますか。(単一選択) 単一回答	N	%
1	はい	64	58.2
2	いいえ	46	41.8
	全体	110	100.0

ペット用の備蓄をしている人は、ペットを飼っている人のうち6割程度であることがわかりました。

[Q11]で「1.はい」を選択した方にお伺いします。

[Q13]災害時に避難するときは、原則としてペットと一緒に避難すること(同行避難)を知っていますか。(単一選択)

(n=110)



Q13	災害時に避難するときは、原則としてペットと一緒に避難すること(同行避難)を知っていますか。(単一選択) 単一回答	N	%
		1 はい	57
2 いいえ	53	48.2	
	全体	110	100.0

動物愛護の観点からだけでなく、放浪動物による人への危害防止や環境保全のため、飼い主自身の安全確保を前提として、ペット同行避難が推奨されています。そのための備えとして、普段からのペットへのしつけや健康管理のほか、ペット用の備蓄用品の確保等が必要です。

なお、同行避難とは、避難所での人とペットとの同居を意味するものではありません。(環境省「災害時におけるペットの救護対策ガイドライン」参照)

今回は、避難所での生活に関してアンケートを行いました。

避難所では、地域団体及び避難者、避難所担当職員、避難所となる施設の管理者等が相互に連携しながら運営を行います。高齢者、障がい者、妊婦、乳幼児を連れた人、ペットを連れた人、持病のある人等、避難者は様々な事情を抱えています。

市では、災害に対する備えのひとつとして、避難所運営の円滑化を図るため、指定避難所ごとに、避難予定の自治会などの地域住民や施設管理者及び避難所担当職員による「避難所運営委員会」の設立及びその活動を推進しています。

ひとりひとりが自分や家庭にあった災害に対する備えを進めるとともに、災害時には円滑な避難所運営ができるよう、ご協力をお願いいたします。

[Q14] その他、防災全般に関するご意見・ご要望がございましたら、ご記入ください。
(自由回答)

- 分からないことが多すぎる。実際に被害にあった時が怖い。
- 女性の意見を取り入れることが大切だと思う
- 自治体で避難訓練などを義務付けて行うことが望ましいと思います。今は自治体で避難訓練がなく(あったとしても希望制)災害が起こった時にぶつけ本番で避難をしなければならないので、本当に災害時に迅速に避難ができるのか疑問です。災害時に迅速に対応できるように避難所での模擬体験や訓練も必要だと思います。
- 自主防災会は、作るように言われて、作ることが目的になっており、作ったはいいが、自治会との連携や、自治会でやることと自主防災会が独自でやるべきことが全く周知されない状態である。
- 現在、自治会は輪番制で 毎年役員が交代します。多種の情報を把握している常任の役員さんの存在も必要なのではと考えるようになりました。
- 成田市は、防災意識が低い。
- 携帯などを充電できるように、配慮したほうがいいと思います。(確実な情報を入

手するため)

- 災害時に弱者となる人々をケアできる仕組みを、通常時から計画を立てていただきたいです。その中には在宅医療を受けるがん患者などに医療を継続して提供できる仕組みも考えておいていただきたいです。停電で命の危機に陥る人もいるのではないかと思います。
- 町内ごとや、自治会ごとに色々と決めておく事は大切ですが、高齢者が多い地区もありそうで、防災や支援？に差が出てくるのでは？と不安もあります。
- 具体的な訓練に、交替でも全世帯が参加出来ればより良いのではないかと思います。私自身も、そういう事態を経験したことがないので。
- 自分の子供に発達障害とアレルギーがあります。東日本大地震の時も、どうしたものかとオロオロしました。今は子供たちは大きくなりましたが、また同じようなことが起きたら、小さいお子さんを抱えたお母さんたちにフォローをしたいと思っています。積極的に関わるのは、相手のあることなので難しいと思います。相談できるんだよ。と、いう空気作りが出来たらいいなと思います。
- 今、マンション住まいの為、避難所に退避することは想定になかった。避難しなければならない時は、成田のすべての地域の人たちが被災している状況が考えられ、改めて防災を考えてみたい。
- アパートだと、自治会に入らないので、そのような情報は全く分かりません。年に一度でもいいので、近くの避難所や公民館などから、配布物があれば助かります。
- ニュータウンの団地に住んでいますが、自治会があるとは聞いたことがありません。このような状況で、いざ災害がおこった時にはどうなるのだろうと不安です。
- 公園などに穴を掘り、簡易トイレを設置出来るようにしてほしい。
- 成田市住民に対して避難所や避難時の食料や寝具は少ないのか多いのか分からないのでHPなどで確認しやすければ嬉しい。
- 避難した人（特に健常者）はお客さんではないので、自主的に困っている人を助ける必要があると思うし、その要求（仕事があること）が精神の維持に大事だと思う。
- 避難所委員会のメンバーに女性が半数は必要
- 水の配布場所や食料の配布場所など、どうやって手元に届くのか分からないので知りたい
- 自身海外へ渡航した経験があることから、自国の言葉が通じない地域での暮しや、ましてや災害は非常に不安に感じると思います。
特に成田市には様々な国の方が住まれているように見受けられますので、いざというときに混乱を招かないような準備をもうされているかと存じますが必要かと思いました。
- 三里塚コミュニティーセンターを、本城小学校や三里塚小学校なみの避難所として格上げしてほしい。
- 基本的には自助、互助が大事。最初から行政に頼ろうとしているようでは本当の防災はできない。いい加減な行政のパフォーマンスが一番危険だと思う

- 何もないときは、当然誰でも冷静に行動できますが、いざ、火事とか起こった場合、そうもいきません。訓練は必要と思います。
- いざというときに協力できるように、日頃から近所で良い関係を築いておくことも大事だと思った。
- 私は阪神大震災に遭い、住まいも職も無くなり、実家に避難しました。さすがに神戸はすごいと言うべきか、近くの小学校に3日間避難しましたが、すぐに、先生方が指揮をして、あっという間に、運営をはじめました。あの混乱の中で合理的で見事だと思いました。
- いざ災害が発生すると、自主的な自治が非常に重要になると思います。そのためには常日頃から防災組織を意識した教宣活動も大切ではないでしょうか。
- 自主防災組織を市主導で作って欲しい。
- 備蓄についての各自治体との話し合いと市の指導
- 多くの人に防災への関心を持ってもらうためにも、防災マニュアルの簡易版の全戸への配布をお願いしたい。
- 防災に対してみんな知識、認識が低いと思われる。だから、子供が見てもわかるような簡易的なマニュアルと周知をする必要があると思います。
- 自然災害だけではなく、外国からの攻撃を受ける可能性も出てきたので、各自治体で予行練習など対策すべきだと思う。
- 成田にいるとあまり不安が無く、自己防衛の備えを怠っていました
- 成田市内は広いので、防災と一言と言っても対策が異なるため、地区ごとに必要と思う。何かあった際ニュータウン内の混乱対策、印旛沼付近は地盤が弱そうだななど、もう既に行っているとは思いますが、地区ごとに対応が異なると思います。
- 訓練を定期的にしたほうが良いと思う
- 市の備蓄に頼るだけではなくて、家庭でも食料の備蓄や防災対策をすることが必要。
- 市のマニュアルは現実性が無いので、実態に即したものに書き換える努力が必須。東京都のものを実際に適用しての改訂が必要であり、防災の専門家の雇用も必要である。
- ペットが好きな人は連れていきたいですが、動物が苦手な人もいるので、避難所でも、ペットは別枠の避難所にしてほしい。
- 市民の公共の場への避難はルールに絶対ないと収拾が着かない。異常事態であれば当然、絶対的な市民ルールは決めておくべきだ！
- 広い範囲の避難訓練ではなくて、狭い町内事なので避難訓練ができると思います。私のところは自治会がないので、ちょっと難しそうですが。
- 実際に避難した場合、トイレなど対応困難な場面が予想されるので、客観的に実施可能かどうか検討が必要であろう。
- 災害時の連絡を分かりやすくしてほしい。
- いざとなった時の指定避難所の円滑運営のために指定域内の町内会等への連帯組織を造っておくべきでは
- ペットを飼っているので鳴き声等でまわりに迷惑をかけると思うので避難所には

行かず出来るだけ家に留まりたいと思っています。避難して空家になるので、空き巣対策にもなると思うので、各家々を回って声をかけたり、物資の配給をして欲しいです。避難していない高齢者や病弱、障がい者の人たちの為にも。

- ①避難所で聞いた話ですが、女性トイレの前に男性の喫煙、談話するスペースがあり、トイレに入りづらく我慢していた ②授乳室や更衣室の確保とともに、休憩室的なもの(女性のフリースペースとしての場所…気丈にふるまっていて家族に話せない思いなど)が欲しい ③避難所内の食事づくりにも、女性だからと駆り出されて朝から晩まで働きづめになるなど、ジェンダー視点の大切さを思うため、女性を委員に入れることは必須であり、その割合も女性4割を目安にお願いします。そうでないと意見反映がなされないと思うため。
- 動物との避難については、動物アレルギーや鳴き声・匂いなどに注意して、別部屋を用意しておいた方が良いでしょう。
- はなのき台の自治会の活動がわからない
- 東日本大震災等での避難所で女性がひどい目に遭った話など聞いたことがあります。そういうことも頭に入れて運営していただけたらと思います。
- ペットを飼っていますが、ペットが嫌いな人もいると思うと、避難所に行くのに少しためらいがあります。出来れば、犬や猫を飼っている人専用の避難所、もしくは専用の階があれば、気兼ねなく行けるし、たとえうるさくてもお互い様なので、トラブルにもならないと思います。是非、ご一考下さい。
- 準限界集落で、行政側を満足できる防災組織は作れなかった。以前自治会長独断で防災組織を作るに当たり、臨時総会を開き、自治会員の多数で、否決した。理由は自治会長の独断が命取りとなった。自治会長の不祥事が発覚し、その後自治会長派は自治会を脱退し、自治会がガタガタとなってしまう今日に至る。
- 雨水や泥水を飲み水にできる濾過装置、浄水器などを用意してほしい。
- 断水等が見込まれるため積極的に井戸を掘るなど備えが必要になるかと思っています。
- 広報誌などで災害時に必要な知識を教えてください。
- どんな集会でもOKだが、そのつど伝える様な心掛けが欲しいね。老若男女子供に至るまで何らかの内容できっかけづくりにしてはどうでしょうか。
- 日頃から種々の準備の必要なことは理解しているが、つい先送りして何も準備できていないのが実情です。恥ずかしい限りです。
- 行政でも防災に関する広報を進めて下さり、少しずつ知識は深まりつつあると思います。いつ起こるか分からない自然災害に対して継続して啓蒙することが大切であり、大人が備えをすることにより子どもにも自然と浸透していくと考えます。
- 子供がいる家庭の為に幼稚園や小学校にパンフレットなど配布してほしい。
- 弱者最優先思想の徹底
- 避難所に指定されている施設は該当する地区のキャパシティを計算して決められたのかがそもそも疑問に思う。住んでいる地区は高層マンション、アパートが年々増え、この状況で大災害がおきたら避難所に入れない避難難民がでる。
- ペットは金魚なので連れては行きません。一番大事なのは、災害後の対応では？

政府関係者の長靴がないなら、はだしで歩かせればよい。そんなものに、長靴代の税金を支払う必要はないし、おんぶする必要もない。空港があるので、ミサイルが飛んできた場合の対応策は当然ありますよね？ないなら、市民はどうしましょうか。あるなら教えてくださいね。成田空港は、非常時には米軍が使用するのですよね。

- 避難所には様々な人や動物が集まるんだな。気づかなかった。利用するか否かも十分に考える必要があるよ。家の方が安心だとね。また、収容人数で余裕のある避難所がネットから分かると利用しやすいんじゃないかな。公民館にするか、体育館にするか、小学校にするか、中学校にするかなど。
- 最後のペットを同行する件ですが、勿論そうするつもりでしたが、決まりになっていることは初めて知りました。その他、防災に関することは、もっと色々な手立てで周知すべきと思います
- 私の住んでいる町内では、自治会がありますが自治会から脱退する方が増えています。市では、自治会を充てにしているようですが、現状をもう少し把握したほうが良いと思います。
- 自治会の構成員も高齢化しており、災害時に自分の身の回りさえ、十分に行えないのが実情ではなかろうか。
- 防災に関して自治会等の役割が増大していますが、組織率も年々低下している現状では、いざという時、統制が取れるのか、不安です。また、役員の負担が増える程、退会する会員も多くなるので、あまりに地域の仕事を増やすのは疑問に感じます。
- 今回のアンケートで、知らなかった事も多かったです。一人一人が、人ごとではなく自分の身近な問題として防災を真剣に考えないといけませんね。
- 自治会の一部参加では無く、大勢参加型の防災訓練を行いたい。
- 避難所に虎の巻みたいなもの用意しておき、それに従って行動すると最低限の避難生活ができるとしたら、誰もが安心できるかなと思いました。
- 年々防災に関する意識が低下している。
- 何かあった時の取り決めを事前に周知徹底しておくべきだと思います。
- 全く情報が無い。
- 家族に持病がある為、避難時での薬の確保が不安なので、医師や看護師などとすぐに連絡が取れる状況であるといいです。
- 東京防災のような冊子を作り、全戸配布ができれば、市民としてどのような準備をすればよいかかわかると思う。また、行政として市民に「行政はここまでやります。あとは個々人でお願いします」といった公助の範囲を明確にしておくことで、「行政に頼らない市民」を育てていけるのではないかな。
- 防災ガールの講演会楽しかったです。成田でも若者の活動が広がれば良いと思います。
- 自分が普段常用している薬を忘れずに持っていく。
- 公津の杜地区のマンションに住んでいますが、いくつものマンションがあるこの地区で避難所に入ることは無理ではないかと思われます。そのような時は支援物

資等も受け取ることにはできないのではないのでしょうか。それならば、ここまでしかできないので自分で用意することはこれですというように、あらかじめ知らせてほしいと思います。

- ニュータウン地区も、例外でなく、年配、高齢者が増加している。身軽に非難するなど。改めて広報する機会が必要かもしれない。
- 頻繁に地震が起こっているが、どこが避難場所なのかさえも知らない。国内外からの転居者も多い成田市で、自らがアクセスしないと分からないような防災取り組みではいけないのではないのでしょうか。道端に防災マップすら見当たらない。
- 身近な地域単位での防災について話し合いや、訓練ができるように、市役所でお膳立てをしてほしい！日頃からの準備が必要だと思いますので・・・、住民レベルでは、心配ばかりで、何もできないので、誰かがリーダーシップをとってほしい。地域単位の防災委員会をつくり、現実的な防災訓練やそのことについて学びの場を提供していただき、ミニマムな地域単位の住民（子供から大人まで）で防災意識を強めていきたいと思う。
- もっと市で活動していることをアピールするべきだと思う。
- 訓練があつたらいいと思います
- 成田市の防災標語やスローガン、実際に災害が起きた時のシミュレーションや被害想定、また、災害や救援ボランティアの事前登録がありますと良いのではないのでしょうか？宜しくお願い致します。
- 東京都のような防火冊子があると良い
- 題材の「避難所」なるものへの知識が殆んど無く、今回のアンケートへの回答は筋の通らない内容になってしまいました。改めて成田市のHPの「避難所運営」、その中の「避難所運営マニュアル」の存在を確認しましたので、内容に目を通してみたいと思います。何時必要になるか判らない「避難所」なる故に、発生・被災地の実態を手本に、早急に取り組んでいく事が求められていると考えます。
- 自治会がないので情報が全くないので不安
- 防災無線が聞き取りにくいことがある。設置場所の考慮をして欲しい。
- 自治会として避難訓練を毎年実施していますが、災害が起きた時の初期には自治会として対応しなければならないと思います。多くの市民は災害が起きたら市が指定した避難場所に行けばいいと思っている市民がほとんどでしょう。避難所は直ぐ開設されるわけではない。自治会として決めた避難場所（ブロック毎）に集合して避難場所に来ていない人がいたらレスキューに行く。そして各ブロックは全員の無事が確認できれば、自治会全体の集合場所に集まり今後の対応を検討する。この様な事を各自治会が行われるよう指導して欲しいと思います。赤坂さんのお話をお聞きして成るほどと思う事多々ありました。自治会内の最初の避難場所が適当であるか等も相談したいと思っています。
- 首都圏直下地震が想定されていることから、広域災害救援についても検討して頂きたい。
- 身体障がい者（オストメイト）としては、災害時に即座に不安に陥るのは「ストマ用装具の確保ができるかどうか」です。私のようなウロストミーにとって更に

困るのは、寝る場合にウロバッグに尿が流れるように、ベッドを使用することが必要になることです。

災害時は健常者にとっても大変な時なのはよくわかりますが、身体障がい者にとっては本人でなければ分からない不自由なことがたくさんあることを多くの人に理解していただきたいと思います。

- 防災に関しては発生しないと実感がわかないため、如何してもなおざりになりがちだ。そこで機会あるたびに幾度でも注意を喚起することが大切だ、無駄なようでもその積み重ねが結果を出すことになる
- 私の住む地域（大栄地区）は高齢者が多く、おそらく外国人の方も多く住んでいます。災害が起きたとき、高齢者といえども元気に動ける方は活動を、若くても日本語がわからず困っている外国人の方には手厚く、となる可能性が高くなると考えられます。地域の現状を正しく知っておくことが被害を最小限にできる手立ての一つだと思います。
- 災害時には優先順位をつける必要があると思う。何が重要で何を諦めなければならぬのか、各家庭で確認を促すようなことも必要だと思う。
- なんだかんだ身をもって体験したことがないと、なかなか万端な備えを取るといっても難しいと感じています。とくに物理的な観点よりも心構えの問題として。
- わが家は ADHD の息子がいます。見た目ではわからない障がいですが、不安感が人一倍強く、避難所生活では奇声を発する、よそ様のスペースに入ってしまう、動き回る等、迷惑をかけることが予想されます。自宅に被害がなければ自宅での避難所生活が本人には1番落ちつくと思います。自宅で生活しながら救援物資を受け取る方法、情報共有の仕方も考えていただきたいです。
- そもそも自治会に入会してない自己中が多過ぎるのと、高い自治会費を払わせておきながら、使い道といえば新年会で部落の長老に貢がされるという体たらく。自治会でどうこうというやり方は無意味。
- 自宅庭で避難できる場合は、支援物資などの配付方法等について周知してもらいたい。
- 災害が起きてから慌てないように 簡易トイレは 公園ごとに設置してあると安心。もちろん 普段は 鍵などをかけて 自治会長もしくは 公民館及び共同利用施設に保管できれば いざという時に すぐに使えるのでは。
- 少し大震災から時間が経ってあの時の危機感がやや薄れてきてしまったので、防災対策や意識づけを改めてしていきたいなと感じました。また、夫婦二人暮らしの賃貸住まいで自治会などにも入っておらず、近所の人との交流が無いのでそういった時に助け合いができるか少々不安があります。もう少し地域の何かに参加していこうかと思いました。
- 防災活動に参加する人は、意識を持っているので、実際、災害に遭遇しても、その場でコミュニケーション出来るので、何とかなると思う。問題は参加しない、近所付き合いを嫌う、人たちとの関係を、どうするか？だと思う。この手のアンケートも答える人は意識を持っているが、そうでない考え方の人にどうして啓蒙するかである。現在方法論は思いつかない。

- 災害にもよるが、避難時に自宅にいるとは限らない、どこに逃げればよいか、どうやって情報を得たらよいのか？ネットなどはパンクするだろうし。ドローンを使ったアナウンスと垂れ幕など、通信インフラに頼らない方法のバックアッププランが欲しい
- JR 成田駅を境に東西の往来できるルートが限定されている。徒歩や自転車での移動を考えたら JR 成田駅のコンコースだけでは往来のキャパシティを超えると思う。なかよしトンネルを活用したいが、トンネル部分を除いては歩道がなく車道脇を歩かなければならないので危険と思う。
- ニュータウンは、転勤の人も多く、どこが危ないとか分からず不安な方も多いと思います。大きな地域で成田全体を知る機会が欲しいと思います。また、自治会の単位では、いざというとき、実際どうやって避難所に行くのか、また、誰に声掛けするか、近所のどのあたりが危険になりそうか、集まってシミュレーションする機会があると、よりイメージしやすいと思いました。
- もう一度、障がい者(児)の居る家庭を市で把握してほしい。
- 自分達の避難場所は家族で話し合っ統一することが大切だとは思いますが、実際に1つの避難所にどれくらいの数の人々が避難してくるのか予測できていない。避難場所による偏りがあるのであれば分散させることも大切だと思うのでこの避難場所には何人くらいが避難してくるのか目安の人数があれば市内避難所マップに入れて目に見える形で示してもらえるといいと思います。
- いつ何が起きてもおかしくないのもっと防災時どうするか考える意識が必要だと思います。
- 地震や大雨などの防災だけでなく、他国からのミサイルやテロにも対応を協議して頂きたいです。成田には空港開港時の対応のノウハウが沢山あるはずで。生かせる知識を成田市は持っていると思います。どうぞよろしくお願いします！
- 「共助」「公助」ばかりに頼らずまずは「自助」、一人一人が安全対策を意識しておかなければならないと思っています
- 日頃から、仲良く！とまではいかないまでも、ご近所同士の挨拶が大事と思います。
- 自治会に入っていない場合でも避難所の場所を知っておく必要があるのも、住んでいる地区で決まっていれば行動しやすいです。訓練もあるといざというときに迅速に動けるので、そういった機会があれば参加してみたいです。災害時の対応も広報やホームページなどで、わかりやすく掲載して欲しいです。現在のホームページは「防災関連情報」や「いざというとき」のバナーの位置がわかり辛く、内容にページが飛んでも字が多いので、イラストを使って子供から大人まで理解しやすいものだと良いと思いました。
- 自分の家はどこに避難すればいいのかわかりにくい。
- 市で備蓄品がどれくらいあるのか？災害時どう対応すればいいのかわかりにくい？講座や講演、シミュレーションする機会等をもっと設けて、一人ひとりの意識を高めると共に、いざというときに備えたい。もっと市民が参加できる企画をお願いします。
- ペットと同じ場所に避難するのは反対。ペットがいる人用の避難場所とそうでな

い場所に分けてほしい、猫アレルギーで同じ環境にいること、猫をかつている人と（毛のついた服を着ているなど）同じ部屋にすることで、ひどいアレルギー反応がでてしまう。ただでさえ不衛生になりがちな避難所生活でペットを同伴させないでほしい。まだ自分で判断のつかない乳幼児が興味本意で近づき噛まれたり怪我をする危険性もある

- 市の公開している情報がわからないので答えられない。
- 子供の頃から意識を高めた方が良いと思いますので、実現は難しいかもしれませんが1泊2日で良いので避難生活体験を実施してみるのはいかがでしょうか。手始めとして小学校で6年生を対象者にして、授業中に大地震発生、親や近隣で参加可能な人達が学校に避難してきた、といった想定はいかがでしょうか。例えば夏休みのような不登校日であれば実際の授業に支障はきたさずに済むと思います。
- ペットを飼っている人の自己責任をよく伝えてほしい
- 災害時に備えて、各家庭でも飲料水くらいは備蓄しておくの良いのではないかと思います、2Lペットボトルの水は、通常品でも2年は大丈夫ですから、使いながら、備蓄が減ったら購入する・・こんな、やり方で我が家では常に100リッターくらいの備蓄があるようにしています。